

【参考文献】2008 年(宣伝会議)
シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする

■シビックプライドとは？

シビックプライドとは市民が都市に対して持つ誇りや愛着のこと。日本で言う郷土愛とはニュアンスが異なり、自分はこの都市を構成する一員であり、都市をより良い場所にするために関わっているという意識を伴う。つまり、ある種の当事者意識に基づく自負心と言える。

シビックプライドの概念が非常に重要になったのは産業革命後のイギリスにあると言われている。それまで特権的な力に支配されていた社会が工業と交易で富を得た市民階級が力を持ち、市民自らが都市をつくっているという自負に基づき、鉄道網や上下水道に加えて、市庁舎や音楽ホールといった市民のための施設によって都市の骨格が形作られて行った。

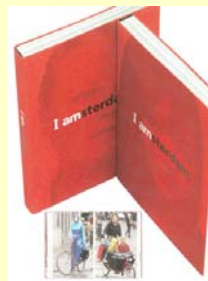
そして、今日再び都市再生の流れの中でシビックプライドの概念が脚光を浴びている。イギリス政府の都市再生のための諮問機関アーバンタスクフォースは、都市再生は何よりもまず「人」のためにあるべきだと述べ、物的環境の再生だけでなく、よりソフトよりの社会再生に重心が移行しており、多くの都市でシビックプライドキャンペーンが行われるようになってきている。

■シビックプライドの事例

昨今の都市施策を見ても、国際的な都市間競争が激化するなか、官民協働の都市再生手法や文化芸術の創造性を高めることで個性化を図ろうとするクリエイティブ都市論などの台頭が見られるが、一方でこれらの施策の効果が市民の実感として受け入れられていないという課題がある。これに対し、シビックプライドによる都市の再活性化の手法は、これまで対外的な効果ばかりに置かれていた施策の重心を対内的な評価に移すことで、市民がつくり出す都市の魅力が結果的に対外的な競争力にもつながるという点に新しさがある。

具体的な事例としては、“you are your city”や“I amsterdam”などのキャンペーンがあげられる。これは“I ♥NY”のように市民と都市とを別のもので捉える従来の考え方と異なり、市民と都市との一体性を伝えている点が新しいと言える。

このようなキャンペーンのほかにも、シビックプライドを醸成するための都市施策は都市情報センターや公共空間の整備など様々なインターフェイスを通じて行われており、いくつかのコミュニケーションのポイントを複合的に活用し、ハード・ソフトを織り交ぜながら重層的に施策を展開されることが重要である。



バーミンガムのシビックプライド
キャンペーン“you are your city”

←阿姆斯特ダムでは、都市マーケティングを担う組織として、市や企業、関連団体からなる阿姆斯特ダム・パートナーズを設立し、新しいビジョンの作成とそれを市民に伝えるブランディングが同時に展開されている

Amsterdam などでも知られる、近年欧米で盛んな新しい都市政策
「シビックプライド」の大阪への導入を提言

背景

大阪におけるシビックプライドの必要性

- ①大阪の持つ都市の魅力が市民に伝わっていない
→外向けに行ってきた都市プロモーションを市民に対してデリバリーする
- ②既存施策の個別化・乱立によりトータルな都市ブランディングができていない
→縦割りの弊害を超える横つなぎの視点とそれを支えるリテラシーが必要
- ③都市の魅力を支える都市デザインと市民生活に関係性がない
→誰かがつくって与えてくれる時代から生活の質が新しい魅力をつくる時代へ

大阪の現在、未来をわかりやすく伝える双方向型ミュージアムを中之島図書館に

機能

シビックプライドプラザの機能

過去を学ぶだけでなく、未来の大阪を
考えるためのミュージアム
市民サービスと観光集客とを兼ね備
えた機能を果たす

都市 プロモ ーション

大阪の都市ブランドの確立・発信

- ・統一的な都市イメージの形成
- ・都市の魅力を分かりやすく市民に伝える
広報・キャンペーン
- ・適切な観光インフォメーションの発信

良質な都市空間の形成が
人の集まる都市をつくる



市民へのメッセージが世界
への情報発信につながる



シビックプライド プラザ

都市 デザイン

都市ビジョンの共有・提案

- ・都市ビジョンに市民意見を反映
させるPDCAの実現
- ・大阪のグッドデザインの紹介
- ・都市デザイン改善のための知見や
アイデアの収集

都市 コミュニ ケーション

都市魅力のリテラシー育成

- ・官民が連携して都市の魅力を考
える場づくり
- ・都市魅力の理解と実践を支援
- ・生活の質を向上させる新しいライフ
スタイルの提案

市民の都市生活の質の向上
が新しい都市魅力を育む

市民の力を都市プロモーションや新たな魅力づくりに反映させるための情報拠点に

施設 活動

シビックプライドプラザの施設と活動

①都市プロモーション活動

(印刷物・webによる情報発信・キャンペーン)

②大阪の歴史と展開に関する展示

(1/1,000の市街地模型、将来ビジョンの歴史的変遷と検討プロセス展示)

③市民のリテラシーの向上支援

(都市魅力に関するワークショップ、担い手育成のためのセミナー)

④都市デザインに関する政策レビュー

(都市開発におけるデザインに対する意見やアイデアの収集・公表)

⑤都市デザインに関する調査・研究

(都市生活の質を高めるための調査研究とその成果の還元)

⑥市民の自由なディスカッション

(カフェやショップの併設による市民の自由な発想を喚起するサロンスペース)



↑ハンブルグの都市情報センター
“ハーフェンシティ・ケッセルハウス・
インフォセンター”
100年前に建てられた発電所が地域の
情報発信基地として再生されている

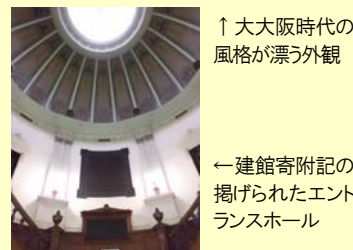
■なぜ中之島図書館か？

中之島図書館は民の寄贈によってできた**大正時代の大阪におけるシビックプライドの象徴**であったと言える。このような中之島図書館の持つ意味を再興し、現代的意味を与えることで、再び大阪のシビックプライドの発信施設として展開を図っていくのに相応しい建物であると考えられる。建物が醸し出す誇り高い雰囲気や市民のプライドを喚起することに加えて、現代的な都市再生の視点も含めた**総合的なシビックプライドを育成する拠点**として最も適した場所である。

中之島図書館の入口ホールに以下のような文章が掲げられている。

「斯の館に入る者は、仰いで国家の盛運を思い、俯して我が府の富源を察し、之を培い、之を養い、諸学理に参じ、益功を将来に収めよ。」(建館寄附記より抜粋)

まさに大阪が築き上げてきたシビックプライドそのものを示す言葉であり、いま、私たちが問い直さなければいけない精神である。このような資産を継承し展開させていくために、**中之島図書館を新しい大阪のシビックプライドの拠点**とすることを提案したい。



↑大正時代の
風格が漂う外観

←建館寄附記の
掲げられたエント
ランスホール